

**文庫あれこれ**◆お隣の枇杷がたわわに実って、文庫の姫沙羅の小さな白い花が庭一面をおおっています。少し肌寒い6月半ばです。◆5月はアートフェスティバル参加ということで、いくつかイベントを催しました。◆若葉のころのおはなし会では、文庫の仲間<おはなし・沙羅>の熱演に加えて、東京町田の若者が凛とした声で、平敦盛と熊谷直実の一騎打ちの悲しさを描いた『青葉の笛』を語ってくれました。祖父母や父といっしょに小学生が身を乗り出して聴き入っていたのには彼らの成長を見るようでとても嬉しくなりました。◆子どもの本と子どもの世界について講演して下さった広瀬さんは、参加した多くの方たちから、久しぶりに深い納得いくお話が聞けたと大変好評でした。(内容はいずれみなさんにも)◆東北の語り部おふたりのお話は、昔話が生活に密着したものであることを再確認でき、また時代を超えた人の営みについて考えさせられました。◆こういったイベントをもっとたくさんの方々に聞いていただくのには曜日・時間・呼びかけ方にもっと工夫をこらさねばと思いますが、なかなか難しいですね。◆先月痛めた腰がなかなか治りません。こちらでも東京でも整体やカイロに通っていて、そのときはいい調子になるのですが、やはり芳しくありません。つい今も若いころの自分だと勘違いしてすぐに火事場の馬鹿力दैいやと物事を片付けてしまうのがどうもいけないようです。結局は横着だということです。みなさんもお気をおつけください。◆今月はみなさんからいただいた文集の原稿をまとめようと早めにやってきたのですが、どうも腰の痛さも災いして今のところはかどりません。そこで、読書でも、と読んだのが、子ども用新刊『モーツァルトはおことわり』そして今『ぼく、デイヴィッド』(岩波少年文庫)を読んでいる途中。◆さて今月、文庫に入れる本を選んでるとき、ヴァイオリニスト『アイザック・スターン』という分厚い本に気持ちが動きました。息子の嫁がヴァイオリニストであり、3女の4歳の孫娘がヴァイオリンを習い始めたこともあったと思います。歌を歌うことは好きでも、クラシックの音のよさがわからない私ですが、本といっしょに彼のCDも買ってしまいました。昨日から仕事をしながらずっと聴いています。そんな中で、上述の子どもの本2冊を何気なく手にとったのです。1冊は、ナチの強制収容所でヴァイオリンが弾けるために命を永らえることができた若い夫婦と後に名演奏家になる息子の話でした。2冊目は、世の中の不純なことを知らされず人里離れた自然の中で父とヴァイオリンを弾いて育った男の子が突然父を失って、見知らぬ人々の中でヴァイオリンと共に生きて行く話のようです。アイザックもユダヤ人。いくつかの連なりに引かれるように読んでいます。こんな読書もあるんですね。◆週末のお天気が気になります。(西村)

☆これからの催し物☆

7月

♥海の日のおはなし会 No. 11

7月17日(日)17:00~19:30(伊豆高原駅)

※始まりの時間を1時間遅らせました!

♥文庫開館5周年記念子どものおはなし会  
アニメーションを親子で楽しもう

7月18日(海の日)10:30~11:45/12:30~14:00

8月

◆夏休みロングオープン(8月16日~22日)

図書館を使った調べる学習賞コンクール優秀作品展

10月

♪秋の夜長のおはなし会:ゲストによる朗読・語り

10月15日(土)17:00~19:00

握手(井上ひさし)・大つごもり(樋口一葉)ほか

12月

★クリスマスお楽しみ・おはなし会(12月18日)

☆☆今後の開館スケジュール☆☆

◆7月は16日(土)、17日(日)通常  
18日は子どものためのおはなし会&特別イベントのみ

◆8月は16日(火)~22日(月)開館  
10:00~15:00(全日)

◆9月は変則です。10日(土)、11日(日)

◆10月は通常。15日(土)、16日(日)

※文庫の時間:土曜日は午後2時~5時、日曜日は午前10時~午後3時

※毎月開館日の日曜には、「子どものための小さなおはなし会」があります。

午前10:30~11:00

《楽しんで読み聞かせ・頑張っておはなし》

みんなで勉強会(おはなし・沙羅)

開館土曜日11:00~13:00

連絡先:沙羅の樹文庫 電話 0557-51-3737

No.58 2011年6月号

沙羅の樹文庫だより



生野富弘さんには、額装アソビを結婚アルバムにたとえてうたった詩があるとか。

ゆっくり あめのひ  
しとしと あめふり  
のんびり いちにち  
あまぐも まくらに  
おひさま おやすみ  
みずたま だきしめ  
あじさい おねむり  
あおい あおい ゆめ  
あふれだすまで

かたつむり でんきち詩

<工藤直子作『のはらうたIV』の中から>

## 最近お借りした本についての読後感

By 森林浴

2011年6月17日

『チボの狂宴』マリオ・バルガス・リョサ著 八重樫克彦訳 作品社刊 2011年3月刊

ぎっしり文字の詰まった538ページもある大長編小説。実在した独裁者トゥルヒーリョをモデルにしているが、ノン・フィクションではなく重層的な構想で組み立てられている小説であって、読み通すにはちょっとエネルギーが必要。スペイン語の人名や地名がカタカナでうんざりするほど出てきて覚えるのが大変だ。(登場人物の一覧表でも付いているといいのだけど。)少しでもスペイン語がわかれば、たとえばシウダー・トゥルヒーリョのシウダーとは英語のCityと解って大分助かる筈。後半には凄絶きわまる拷問場面が2回も出てくるので、夜中に読むのはお勧めできない。ラテンアメリカの作品は、ガルシア・マルケスもそうだけれど、とにかくこってりと味が濃く、読むと胃にもたれるかもしれませんね。

『最期の審判を生き延びて』劉曉波文集 廖天琪・劉霞編 丸川徹史ほか訳 岩波書店 2011年2月刊

昨年のノーベル平和賞受賞者で現在刑務所に入れている劉曉波の書いた時事評論・政治評論・文書(08憲章・裁判陳述書など)・詩などを広く収録した資料集。廖天琪による序文が簡潔にかつ見事に内容を総括している。劉曉波で私が特に注目しているのは、現代中国における「孔子ブーム」に対する仮借なき批判―「聖人として祭られた孔子は、先秦諸子の中で最も凡庸な道徳の説教者である。」―です。

『赫奕たる反骨 吉田茂』工藤美代子著 日本経済新聞出版社 2010年2月刊

赫奕を「カクヤク」と読める人はあまり居ないでしょう。「赫奕」という言葉は355ページに相模湾の夕景色を叙述する箇所、一箇所だけにしか出てこないようですが、吉田茂についての面白く読めるノンフィクションですが、全体としてたとえば佐野真一のノンフィクションのように主人公のマイナス面や失敗も遠慮会釈なく追及するような厳しさはありません。

## 新しく買った子どもの本

絵本:『あめふりのおおさわぎ』(デイビッド・シャノン さく 小川仁央やく 評論社 10)『ヨンのピニールがさ』(ユン・ドンジェ作 キム・ジェホン絵 ピョン・キジャ訳 岩崎書店 06)『ぼくのブック・ウーマン』(ヘザー・ヘンソン文 デイビッド・スモール絵 藤原宏之訳 さ・え・ら書房 10)『さんねん峠』(李錦玉作 朴民宜絵 岩崎書店 81)『とら猫とおしょうさん』(おざわとしお再話 かないだえつこ絵 くもん出版 10)

『みつけよう! なつ』(ビーゲン セン作 永井郁子絵 絵本塾出版 11)『ひらがな あいうえお』(下村昇著 永井郁子絵 絵本塾出版 11)『おひめさまは みずあそびがすき』(ビーゲン セン作 加瀬香織絵 絵本塾出版 11)『ものしりひいおばあちゃん』(朝川照雄作 よこみちけいこ絵 絵本塾出版 11)※以上4冊版元より寄贈

読み物:『モーツァルトはおことわり』(マイケル・モーバーゴ作 マイケル・フォアマン絵 さくまゆみこ訳 岩崎書店 10)『ゴールドン・バスケットホテル』(ルドウィッヒ・ベーメルマン作 江國香織訳 ひさかたちやいりど BL出版 11)『ミルクマンという名の馬』(ヒルケ・ローゼンボーム作 木本栄訳 岩波書店 11)『ミンのあたらしい名前』(ジーン・リトル著 田中奈津子訳 講談社 11)『魔使いの犠牲』(ジョゼフ・ディレイニー作 田中亜希子訳 東京創元社 11) ※リクエスト

『千年の森をこえて』(キャシー・アッペルト著 片岡しのぶ訳 デイビッド・スモール絵 岩波書店 11)

『ねこの学校 1~5』(キム・ジンギョン作 キム・ジェホン絵 ホン・カズミ訳 岩崎書店 08~09)

『風神秘抄 上下』(荻原規子著 徳間書店 11)

### ☆子どもの本の巻☆

本を選ぶとき  
六月の前半に、読み聞かせボランティア入門編で学校で読書ボランティアをしている人々に読み聞かせに向く本を紹介したのですが、最近は大勢に読み聞かせが通例となつていますが、大勢には向かないけど、いい本はいっぱいあつて、それを子どもにどうしたら紹介できるかも大切ななとつくづく思っています。

本来、読書とは個人的行為というか体験ですもの、絵本もひとりでゆつたりじっくり絵を眺めて発見や想像や楽しみを見つけてほしいものです。

文庫でも、みんなで読んで聴いて楽しむ本と、ひとりでのリーディングに向く本も紹介できるブックトークの場を持てたらと思います。(kuro)

## 新しく買った大人の本

日本の文学ほか:『赤の他人の瓜二つ』(磯崎憲一郎著 講談社 11)『ツリーハウス』(角田光代著 文藝春秋 10)『眠れ悪しき子よ 上』(丸山健二著 文藝春秋 11)『魔王の愛』(宮内勝典著 新潮社 10)『音楽の在りて』(萩尾望都著 イースト・プレス 11)『この女』(森絵都著 筑摩書房 11)『ちよの負けん気、実の親―物書同心居眠り紋蔵』(佐藤雅美著 講談社 11)

『さもなければ夕焼けがこんな美しいはずはない』(丸山健二著 求龍堂 11)『毫碌寸前』(森於菟著 みすず書房 10)

『むがすむがすうっとむがす』(佐藤玲子語り 小野和子編著 みやぎ民話の会 98)※5月に沙羅の樹文庫で語ってくれた方の本です。

『家族の歌』(河野裕子/永田和宏・その家族著 産経新聞出版 11)『ホームレスのいた冬』(三山喬著 東海研究所 11) ※以上2冊寄贈本

『ジプシーによくこそ!』(たかのてるこ著 幻冬舎 11)『老人ホームをテストする』(岡田耕一郎・岡田浩子著 暮らしの手帖社 08)『TOKYO オリンピック物語』(野地秩嘉著 小学館 11) ※リクエスト

海外の文学:『飢えのリトルネロ』(ル・クレジオ著 村野美優訳 原書房 11)

『ある家族の会話』(ナタリア・ギンスブルグ著 須賀敦子訳 白水社 97)『夜と霧』(ヴィクトール・E・フランクル著 池田香代子訳 みすず書房 02)『それでも人生にイエスと言う』(ヴィクトール・E・フランクル著 山田邦男訳 春秋社 93) 『ウンベルト・サバ詩集』(須賀敦子訳 みすず書房 98)

※以上4冊リクエスト

『アイザック・スターン』(アイザック・スターン/ハイム・ポトク著 大森洋子訳 清流出版 11)

文庫:『夢をかなえるゾウ』(水野敬也著 飛鳥新社 11)『カラフル』(森絵都著 文春文庫 07)『テンペスト 1~4』(池上永一著 角川文庫 10)『漱石俳句探偵帖』(半藤一利著 文春文庫 11)

『ねじまき少女 上下』(パオロ・バチガルピ著 ハヤカワ文庫)

新書:『復興の精神』(養老孟司ほか著 新潮新書 11)

♥5月の講演会参加費は、東北で被災した子どもたちに本やおはなしを届ける活動をしている読書団体を支援することに使わせていただきます♥